後期自己評価結果（自己評価書）

南アルプス市立白根御勅使中学校	平成２７年１２月２８日（月）作成
学校長　　大　堀　慎　司	記載者氏名　　教頭　　浅利　司

Ⅰ　本年度の学校教育目標

（１）　校訓　「一生懸命」

（２）　目指す学校像

①　生徒一人ひとりを大切にする学校

～生徒と教師がしみじみと話すことができる学校～

②　生徒が学力向上を自覚できる学校

～生徒が、わからないところを教師に質問できる学校～

③　教職員の息があっている学校

～教職員が短時間の情報交換をこまめに行う学校～

（３）　目指す生徒像

知を磨く生徒　　心を耕す生徒　　体を鍛える生徒　　故郷を愛する生徒

（４）　学校教育目標

「志を持ち、道を拓く生徒」

（５）　五本柱

知力　～知識・技能、思考力・判断力・表現力を育てる～

心力　～たくましく他を思いやるやさしい心、粘り強く取り組む強い心を育てる～

体力　～たくましく生きる健康な体を育てる～

安全　～命の大切さを考え、家族や友達に目を向けると同時に、災害に対しても自分で考えて行動できる生徒を育てる～

信頼　～生徒を中心にして、学校と家庭、地域、関係機関が連携する～

Ⅱ　職員自己評価集計結果、保護者アンケート集計結果、生徒アンケート集計結果

平成２７年１２月に、学校職員による自己評価と保護者へのアンケート、そして生徒によるアンケートを実施した。その質問項目と集計結果は別紙による。

今回の職員自己評価と生徒アンケートは、前期と同じ質問項目で実施した。保護者へのアンケートは、後期のみで、昨年度と同じ質問項目で実施した。

Ⅲ　評価と改善策

（１）全体的な評価

職員による自己評価（別紙）については、全３４項目のうち、３２項目でA判定となった。B判定となった２項目は、№.２６の生徒の言葉遣いに関する項目と、№.３０の家庭・地域への情報発信に関する項目であった。この結果から、全体的には、昨年度から引き続き良好な状況にあると判断できるが、前期評価と比較してみると、B判定が１項目増加して、わずかずつではあるが評価の平均値が下がっている項目が１５項目あることから、やや評価が下降していると判断され

る。このことは、大変重要な指標と考えるので、今後、職員全体で共有し、低下傾向にある項目を分析し、具体的な対策に結び付けていく。

保護者へのアンケート（別紙）については、全２７項目中２２項目がA判定となった。評価の平均値でみても、ほとんどの項目で大きな変化はない（あっても０．１前後の上がり下がりである）ことから、全体的には大きな変化はなく、昨年度から引き続き比較的良好な状況であると判断される。

とは言え、５項目がB判定となっており、昨年度と比較してもB判定が１項目増加していることから、これらについて真摯に受け止め、改善策を講じていく必要がある。B判定となった５項目中のうち３項目は、昨年度と同じ項目で、昨年度から十分に改善されていないと評価されている。昨年度B判定であった№.１の教育目標に関わる項目は、本年度はA判定となり評価が改善された。今年度、新たにB判定となった２項目（№.７と１７）については、特に十分な検討と対応が必要な課題と考えられる（詳細は（２）で述べる）。

生徒へのアンケート（別紙）については、２２項目中２１項目でA判定となった。B判定となった唯一は、№.１８の毎日の家庭学習に関する項目で、これは、前期アンケートでも同様の結果であった。№.１８については、昨年度から課題となっている項目であり、粘り強く対策をしてきたところであるが、十分な結果がでていないと考えられるので、さらなる対応が必要である。全体的には、前期と比較して多少の上がり下がりはあるものの、その差はすべての項目で０．１ポイント以内であり、大きな変化はなく、引き続き良好な状況にあるものと判断される。

（２）各項目の評価と改善策

評価項目Ⅰ　「学校教育目標」に関して
【自己評価】 職員評価の２項目ともA判定で、前期と比較しても、大きな変化はなかった。引き続き職員が学校目標を意識して教育活動にあたっていると考えられる。しかし、前期で目標とした№.２の項目の評価改善は達成できなかった。 なお、保護者へのアンケートでは、昨年度よりも向上が見られ、２項目ともにA判定となった。
【改善策】 全体的には、これまでの努力を継続していくことが必要と考えられる。評価改善に至らなかった№.２の項目については、若手職員の意識を向上できるよう働きかけを強めることで改善できると考えられるので、３学期と来年度への課題としたい。

評価項目Ⅱ　「学校経営・学校運営」に関して
【自己評価】 職員評価の８項目すべてがA判定であった。平均値も比較的高いことから、前期に引き続き望ましい教育活動が行われていると考える。しかし、平均値の比較では、０．１ポイント程度ではあるが前期よりも下降している項目が５項目あることから、より緊張感をもって教育活動を行っていく必要があると考える。なお、５項目の評価が下降している要因は、前期評価にはなかった「２」（どちらかというと達成していない）と回答した職員（若手職員）があることと、「４」（十分達成している）と回答した職員数が減ったことによる。

一方、保護者へのアンケートでは、№１７の施設・設備の整備に関する項目で０．３ポイントの下降があり、Ｂ判定となった。これは、校舎の耐震性に問題が見つかったことによる応急工事が影響していると思われる。

【改善策】

職員による評価が下降しているのは、№３～６の項目で、これらは組織的な対応ができているかを問うている項目である。これらの項目で下降するということは、学校運営という観点からは大きな問題であるので、早急に結果を職員全体で共有し、具体的にどの点に課題があるのかを洗い出す。その上で、組織自体の見直しの可能性も含めて、３学期中に対応策を検討する。

前期で課題としていた安全教育、安全対策、環境整備（№７～９）については、目標とした『すべての職員で「３」以上の評価を得る』ことはできなかったものの、「４」と評価した職員が増加していることから、改善が進んでいると考える。前期からの取組を今後も継続していきたい。

保護者へのアンケートで大きく下がった№１７（施設設備が整っているか）の項目については、校舎の応急工事が進行中であることを考えるとやむを得ない面がある。工事の方法や期間、代替措置などについて市教委と連携してきめ細かい対応策を検討し、教育環境への悪影響を最小限に食い止める努力をしていく。

評価項目Ⅲ　「学習指導」に関して

【自己評価】

職員評価の７項目すべてがＡ判定となった。前期に引き続き全体的には良好な状況であると言える。しかし、わずかずつではあるが（０．１ポイント)、評価平均値が下がっている項目が３つ（№１１，１２，１４）あることは注意すべきと考える。この点については、保護者へのアンケートでも、№３と№７の学習指導に関する項目がＢ判定となっており、前期と比較しても数値が低くなっていることから、改善が求められていると判断する。非常に重要な課題であるととらえているので、すでに対策を進めているところである（改善策参照)。

校内研究で重点化して取り組んできた言語活動の活発化（№１４）については、評価数値が下がってしまった。しかし、職員全員で意識化して取り組んできており、取組としての前進は見られたと考えている。もしかしたら、職員の意識が深まった分だけ、逆説的に評価が厳しくなっている面もあるかもしれない。

前期で改善すべき項目としてあげた家庭学習の充実については、職員、保護者、生徒ともに前期と同じ評価数値となっており、さらなる改善には至らなかった。同じく個に応じた指導（№１７）についても職員評価が前期と同じ数値であったことから、さらなる改善には至らなかった。

基礎・基本の徹底（№１３）については、前期比較で０．２ポイントの向上があったことから、改善が進んだものと考える。

【改善策】

上記のように、保護者へのアンケートの中で、№７（わかりやすい授業を行っているか）が、前期と比較して０．２ポイント低くなりＢ判定となった。自由記述欄でもこの点について指摘するご意見がいくつかあり、一部の授業で、学習指導が生徒に満足を与えるものになっていないことがわかる。改善策として、①校内研究で全員が授業公開を行う、②教師間での授業支援や助言を行う、③管理職による授業観察と指導・助言を行う、などをすでに実施している。成果が少しずつ見えはじめているので、このままこれらの取組を継続していく。学校教育としての大変重要

な部分であるととらえているので、今後の最優先課題として取り組んでいく。

家庭学習の充実については、評価数値の低下こそなかったものの、職員、保護者、生徒ともになかなか向上が見られず苦しいところである。これまでの取組を継続させながら、校内研等で先進事例を学ぶなどの方策をとりたい。

個に応じた指導、言語活動の活発化については、これから３学期の授業公開がいくつか予定されているので、これらを通じていっそうの意識化と実践を進めていく。

評価項目Ⅳ　「生徒指導」に関して

【自己評価】

職員評価の１１項目中１０項目がＡ判定となった。評価数値を見ても、これまでになく評価が高かった前期とほとんど変わっていない（０．１ポイントの上下がいくつかある）ことから、引き続き全体的に成果が上がっているものと判断できる。「学校は楽しいですか」という生徒へのアンケート項目が高い数値を維持していることからも、生徒自身の満足度が伺える。

唯一Ｂ判定となった項目は、№２６の生徒が適切な言葉遣いをできているかを問うもので、前期でもＢ判定となっていた。他の項目からするとやや低い評価ではあるが、ここ数年の流れから考えると、これに対する取組の成果も現れているものと考えられる。

保護者へのアンケート、生徒へのアンケートでも、生徒指導に関連する項目は概ね良好であった。判定でも評価数値でも、前期と比較して大きな変化は認められなかった。前期評価が良いものであったことから考えると、生徒指導の成果が得られているものと判断する。

【改善策】

全体的には良い評価となっているので、これまで取り組んできた内容を、いっそう徹底して進めていく。その中で、やはり職員の共通理解が大変重要となるので、手間と時間はかかるが、生徒指導部会や職員会議の場で共通理解を図り丁寧に進めていきたい。

ここ数年間課題となっている「適切な言葉づかい」については、その場その場で行う指導を継続するとともに、職員自らの言葉遣いにもいっそう気を配り、学校全体の言語環境を整えていく。

前期評価ですべての項目をＡ判定とすることを目標としたが、今回の達成はできなかった。この目標の達成にむけて３学期以降も取組を継続する。

評価項目Ⅴ　「家庭・地域との連携」に関して

【自己評価】

職員評価の３項目中２項目がＡ判定、１項目がＢ判定となった。前期の評価では３項目ともにＡ判定であっただけに、Ｂ判定となった№３０の項目（学校の方針や様子をわかりやすく伝えているか）については、改善のための取組を強化しなければならない。ただし、今回、「１」と評価した２名は、いずれも情報を発信できる機会が得にくい立場の職員（このうちの１名は前期評価に参加していない）であったので、勘案すべき点もある。なお、保護者へのアンケートでは、これに当たる項目（№１４）の評価はＡ判定であった。

職員評価の№３１（地域の要請に適切に対応しているか）については、前期と比較して０．２ポイント下がっている。Ａ判定ではあるが、気になるところである。校舎や校庭の照明機器の物理的不具合から学校施設の解放ができていないことが影響しているかもしれない。

【改善策】

Ｂ判定となった学校の様子をわかりやすく伝えることに関しては、それぞれの立場でできることが異なるので、それぞれできるところでの取組を強化する。特に保護者との接点が多い学級担任などの職員は、面談、相談、電話、便り等を通じて、生徒の様子を具体的に伝えていく努力を続ける。また、生徒や保護者との直接の接点が少ない職員は、来校者への対応などを向上させることで、間接的な情報発信を心掛ける。

ホームページについては、閲覧数が多くないことから、内容の更新をより進めるとともに、ホームページの存在の周知にも力を入れる。

評価項目Ⅵ　「学校の特色」に関して
【自己評価】 職員評価の３項目中３項目すべてがＡ判定となった。前期に引き続き良好な結果であると考えられる。特に№３４の生徒が進んで挨拶をするかを問うた項目は、ここ数年で最も高い数値となっており、取り組んできた成果が認められる。同じ傾向が、保護者の評価からも生徒へのアンケートからも読み取れる。大いに評価したい。 残りの２項目（部活動と朝の読書活動）については、前期と大きな変化はないが、生徒の評価は非常に高いので、成果をあげているものと判断する。
【改善策】 全体的に良好な評価となっているので、今後もこれまでの取組を継続させていく。特に挨拶の励行については、生徒会としての取組も盛んであり、来校者からの好評もあることから、生徒を励ましながら継続できるように努力する。また、職員自身も初心に帰って、心のこもった挨拶ができるよう意識の向上を行う。 部活動については、前期の生徒へのアンケートでも出ていた部の増設を要望する声が再度出されている（生徒、保護者の自由記述）が、学校規模・職員数の観点から、実現するのは困難と思われる。既存の部の中で、充実した活動ができるよう指導していきたい。